

# 学力向上アクションプラン(竹田市)

## 目標及び指標

【目標】	
①校内研究の充実（教務主任・研究主任の育成）させ、教師の授業力をあげる。 ②小学校の学力向上（国語・算数・理科）のために、教師の授業力をあげる。	
達成指標	取組指標
①『課題に対して「一人で予想(挑戦)」→「ペアやグループで交流・思考」→「再度、一人で思考・まとめ」を基本とした1時間の流れを徹底し、自分の考えを必ず書かせ、思考の拡充や深化の手だてとさせる指導』を全ての教師が、年間70%以上は行う。	①校内の教務主任・研究主任・指導教諭・学力向上指導教員のいずれかが、学期毎に全員の授業観察を行い、『自分の考えを必ず書かせ、思考の拡充や深化の手だてとさせる指導』ができていないか指導・助言を行う。
②学力向上支援教員、習熟度別指導教員の公開授業や他校支援に関わる教諭90%以上。	②・小学校学力向上支援教員、全小学校に4回以上の他校支援 中学校学力向上支援教員、全小中学校に2回以上の他校支援 ・学力向上支援教員及び習熟度別指導推進教員の公開授業3回 ・学力向上支援教員及び習熟度別指導推進教員の研修講師の実施 ・協調学習をはじめとしたアクティブラーニングの他校支援
③11月の竹田市学力実態調査で、小学校4年・5年・6年において、平均70点以上の学年が80%を上回る。(28年度 25/36学年 69%)	③指導教諭が、若手教員や授業改善において課題を抱える教員の授業を参観したり、指導や支援に入り、新大分スタンダードの中で特に力を入れたい2点について指導を徹底して行う。 (竹田小・南部小・直入小・豊岡小)

## 行動計画

### ①「中学校学力向上対策3つの提言」の実施に関して

- 学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底より  
 教務主任会議・研究主任会議を充実させ、以下のことを徹底させる。  
 ・「協調学習ジグソー法」をはじめとした、思考力・判断力・表現力を育む問題解決的な展開の授業の充実。  
 ・生徒指導の3機能を活かし、課題に対して「一人で予想(挑戦)」→「ペアやグループで交流・思考」→「再度、一人で思考・まとめ」を基本とした1時間の流れを徹底し、自分の考えを必ず書かせ、思考の拡充や深化の手だてとさせる指導の徹底。
- 学校規模に応じた教科指導力の仕組みの構築  
 T授業(竹田型創造交流授業)・竹田教育研究会の一層の推進  
 ・T授業(竹田型創造交流授業)を全学年で2回以上行い、他校の生徒と学び合うことで、コミュニケーション力の向上を図る。また、多様な意見に触れることで思考の深まりや広がりを目指す。さらに、他校の教師の指導に触れたり、一緒に指導案を練ることで、指導力の向上を図る。  
 ・竹田教育研究会の教科部会を7回以上持ち、お互いの実践について交流し、若手の人材育成ととも個々の指導力を向上させる。また、教科部会で竹田市学力実態調査の問題作成を行うとともに、結果をもとに生徒の定着と教師の授業力を振り返る。
- 「生徒とともに創る授業の推進」  
 学校全体で取り組む授業改善  
 ・授業改善に活かすために、学期に1回は生徒による授業評価を校内研究で交流し、分析を行う。  
 ・生徒会、または学年、学級ごとに学習に対する目標を設定させ、振り返り改善、目標の再設定を意識させ、学習に取り組ませる。

### ②小学校の授業改善の取組について

- 学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底
- 学力向上支援教員・習熟度別指導教員によるモデル授業の提案・授業支援  
 ・「協調学習ジグソー法」をはじめとした、思考力・判断力・表現力を育む問題解決的な展開の授業の充実。
- ・生徒指導の3機能を活かし、課題に対して「一人で予想(挑戦)」→「ペアやグループで交流・思考」→「再度、一人で思考・まとめ」を基本とした1時間の流れを徹底し、自分の考えを書かせ、思考の拡充や深化の手だてとさせる指導。
- 中学校理科の学力向上支援教員による、小学校理科の授業への指導・改善
- 個々の困りやつまづきへの対応  
 ・市の学力実態調査を小学校4年生から始め、個々の困りやつまづきを支援する。

### ③家庭・地域と連携した学力向上の取組について

- 学びにむかう姿の確認
- ・土曜授業に合わせて、授業参観日を設定したり、児童生徒と一緒に活動する行事を仕組む等して、今年以上に土曜授業の活用を行い、保護者や地域の方が児童生徒及び学校の教育活動への理解を深める場を多くすることで、支援体制の構築を図る。「みんなで学校へ行こう！」
- ・学びの基盤を創る視点から、幼稚園・保育園・こども園との連携に努める。